

専門実践教育訓練明示書

講座の名称	教育学研究科教職実践専攻スクールリーダーシップ開発コース					
実施方法	① 通学（ <u>昼間</u> 夜間・土日）—②—通信—スクーリング(回数—回)—					
指定講座番号(15桁)	4012014	—	2510021	—	2	
講座の創設年月日	専門実践教育訓練給付金 対象講座の指定期間	過去一 年の講 座実 績	入講者数(16人)		修了者数 (16人)	
平成21年4月 1日	令和10年3月31日まで					
訓練期間	24ヶ月		総訓練時間		2070時間	

1. 教育訓練目標

①取得目標とする資格の名称、目標レベル	☐ 業務独占資格・名称独占資格 () ☐ 職業実践専門課程 () ☐ キャリア形成促進プログラム () ☒ 専門職大学院 (教職修士(専門職)) ☐ 職業実践力育成プログラム () ☐ 情報通信技術関係資格 () ☐ 第四次産業革命スキル習得講座 () ☐ 専門職大学、専門職短期大学、専門職学科 () 教育訓練を通じて取得を目指す上記以外の資格等 なし
②①に係る資格・試験等の実施機関名称	福岡教育大学大学院教育学研究科
③当該資格等を取得するための要件または受験資格等	大学院に2年以上在学し、所定の46単位以上を取得すること
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる職種・職務及び習得された技能・知識が活用されている業界と活用状況	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の教員

2. 教育訓練の内容

教科 (カリキュラム)	時間	使用教材名
共通科目(18単位)1単位あたり45時間	810	
コース別科目(14単位)1単位あたり45時間	630	
課題演習(4単位)1単位あたり45時間	180	
学校における実習(10単位)1単位あたり45時間	450	

3. 受講者となるための要件 (この講座を受講するために必要とされている条件など)

①受講するに当たって必要な実務経験等	①本学教職大学院入学時において、現職教員及び教育関係諸機関に常勤職員として在職している者で、原則として5年以上の教職経験(常勤講師の経験を含んでもよい。)を有する者(現職教員には幼稚園教諭や保育所勤務の保育士は含みません。)又は、この教職経験の年数に該当しない場合で、都道府県教育委員会等又は所属長が受験を認めた者 ②「①」に相当する教職経験を有する社会人
②受講者が受講に最低限有しておくべき資格・技能・知識等の内容及びその水準	教育職員免許法に定める教員免許状を有し、大学を卒業した者(学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与されている者、外国において学校教育における16年の課程を修了した者等含む)
③その他	条件の詳細については、学生募集要項を必ず確認すること。

〔特記事項〕

専門実践教育訓練明示書

4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況

(1) 資格取得状況

① 前年度の修了者数	16	人			
② ①に係る教育訓練の入講者数		人			
③ ②のうち目標資格の受験者数		人	受験率(③/②)		%
④ ③のうち合格者数		人	合格率(④/③)		%
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1		人			
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2	16	人			
			就職・在職率(⑤+⑥/②)		%

※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。

この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。

※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、修了後に別の職に転職した者。

(2) 受講修了者による講座の評価等

① 回答者総数		人			
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員		人	②A: 就業者計	
	2 非正社員、派遣社員		人		
	3 その他の就業(自営業等)		人		
	4 非就業		人	②B: 非就業者計	
③ 受講開始前と現在の就業先の変化	1 受講開始時の就業先と現在の就業先は同じ		人	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下)	
	2 受講開始時の就業先と現在の就業先(自営業等含む)は異なる(転職)		人		
	3 受講開始時は就業していたが、現在は就業していない		人		
④ 受講後の就業形態	1 正社員		人	④A: 就業者計	
	2 非正社員、派遣社員		人		
	3 その他の就業(自営業等)		人		
	4 非就業者		人	④B: 非就業者計	
⑤ 受講後の賃金変化	1 3割以上増加した		人	⑤の回答数合計 ※④Aと同数(又はそれ以下)	
	2 1割以上3割未満増加した		人		
	3 1割未満増加した		人		
	4 変わらない		人		
	5 1割未満減少した		人		
	6 1割以上3割未満減少した		人		
	7 3割以上減少した		人		
⑥ 講座の受講の効果	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ		人	⑥の回答数合計	
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる		人		
	3 社内外の評価が高まる		人		
	4 早期に転職・再就職できる		人		
	5 希望の職種・業界に転職・再就職できる		人		
	6 より良い条件(賃金等)で転職・再就職できる		人		
	7 趣味・教養に役立つ		人		
	8 その他の効果		人		
	9 特に効果はない		人		
⑦ 受講開始時に就業していなかった受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した		人	⑦の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した		人		
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した		人		
	4 就職していない		人		
⑧ 講座の全体評価	1 大変満足		人	⑧の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下)	
	2 おおむね満足		人		
	3 どちらとも言えない		人		
	4 やや不満		人		
	5 大いに不満		人		

(3) 受講者、受給者の修了後の状況(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価等)

5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な方法

1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の把握・測定方法	シラバスに記載されている「ルーブリック」をもとに試験、レポート、平素の学修状況等を踏まえ、総合的に判断する。
(通信制講座の場合) スクーリングの実施場所、時期、期間・回数	

専門実践教育訓練明示書

6. 受講効果の把握方法			
(1) 受講認定基準 (6ヶ月ごとの出席率・定期試験、進級試験等の具体的基準)		出席率66%(2/3以上)、試験合格率5段階評価(上から4段階以上合格)、補講・追試は認めない。	
(2) 受講認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法		履修した授業科目の単位認定については、筆記試験、口述試験、実技試験、研究報告により行う。	
(3) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)		福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻の修了年限を満たし、所定の授業科目及び46単位以上を修得すること。	
(4) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法		2年間の教職大学院での実践的研究と学修の成果を「報告書」として総括し、研究報告会において発表を行うことにより、総合的に判断を行っている。	
7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法			
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法		学生1名につき1名以上の大学教員を指導教員として、学習面、生活面で助言・相談・指導を行っている。	
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例: 資格取得関連情報や資格関連職種の求人情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)		教職実践専攻内での履修指導に始め、各種教員採用試験対策を実施している。	
8. その他の事項			
指定教育訓練実施者名 及び代表者名		国立大学法人 福岡教育大学 (代表者名: 学長 飯田 慎司)	
住所及び連絡先		福岡県宗像市赤間文教町1-1 TEL 0940-35-1200	
施設名称及び施設長名		福岡教育大学大学院 (施設長: 研究科長 森 保之)	
住所及び連絡先		福岡県宗像市赤間文教町1-1 TEL 0940-72-6012	
苦情受付者	氏名 八尋 毅 所属 教育支援課 大学院室	事務担当者	氏名 八尋 毅 所属 教育支援課 大学院室
連絡先	TEL 0940-72-6012	連絡先	TEL 0940-72-6012
専門実践教育訓練経費	1. 専門実践教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②)		1,353,600 円
支払い方法 ① 一括払 ② 分割払 ③ 両方可	① 入学料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		282,000 円
	② 受講料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		1,071,600 円 第1期 267,900 円 第2期 267,900 円 第3期 267,900 円 第4期 267,900 円 第5期 円 第6期 円 (うち、必須教材費 円)
	2. 専門実践教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④)		円
	① 任意の教材費(税込額)		円
	② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額)		円
③ 施設維持費(税込額)		円	
④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額)		円	
3. 総額 (1+2) (税込額)		1,353,600 円	